



《こども版》 としょかんだより No. 333

2012年

# わくわく本だな

## 5月号

富山市立図書館

### 今月のおすすめ



★ = 1・2年

★★ = 3・4年

★★★ = 5・6年

—あたらしうはいつた本の中から、おすすめの本をしようかいます—

#### 「ろばのとしょかん」 (えほん)

ジャネット・ウィンター／作 集英社



ルイスは、本が大すきで、いえには、たくさんの本があります。そこで、ろばに本をつみ、はるかとおくの村まで、子どもたちに本をとどけることを思いつきました。南アメリカのコロンビアでほんとうにあったおはなし。

#### 「おなかがギュルン」 ★★ 長崎 夏海／作 新日本出版社

真<sup>ま</sup>央<sup>お</sup>の家族は、亡<sup>な</sup>くなった父<sup>おき</sup>さんのふるさと沖永良部島<sup>えらぶじま</sup>に引っこしてきました。島<sup>おき</sup>にきてから、ねえ<sup>けい</sup>さんはお飯<sup>はん</sup>やフーチャンプルなど地元のめずらしい料理を作ってくれます。でも今日は、父<sup>おき</sup>さんとの思い出のサバイバルスープを、自分で作ってみることにしました。



#### 「ホラー横丁13番地 1 吸血鬼の牙」 ★★★

トミー・ドンババンド／作 偕成社



ルークは、10才のたんじょう日に、狼男<sup>おおかみおとこ</sup>になってしまいました。そして、ルーク一家が“顔なし男”にむりやりつれてこられたのは、「ホラー横丁」。モンスターたちが住むぶきみな町でした。ルークは、人間の世<sup>せ</sup>界<sup>かい</sup>にもどる方法をさがしたそうと決心します。

# あたらしくはいった本

## ものがたい

「ウサギのトトのたからもの」 ★ ヘルメ・ハイネ／作 徳間書店



学校をそつぎょうしたトトは、自分のたからものを見つけに行くことにしました。工場の見ならいをしたり、サーカスの手品師の手つだいをしたり。ようやく、ゆうびん局のしごとにとどりつきますが、それでも、たからものは見つかりません。

「イチゴがいっぱい」 ★ 竹内もと代／作 文研出版

さつきは、日よう日になると、いなかのおばちゃんの家<sup>いえ</sup>にやってきて、イチゴのなえ<sup>そだ</sup>を育てています。ちかくにすむ将太<sup>しょうた</sup>といっしょに、ひりょうをやったり雪よけをかけたり。さて、5月、イチゴはうまく実<sup>み</sup>をつけるのでしょうか。



「ピーターサンドさんのねこ」 ★★

ルイス・スロボドキン／作 あすなろ書房



ホテル島<sup>じま</sup>では、ピーターサンドさんが数えきれないほどのねこ<sup>かぞ</sup>とくらしています。ある夏、ピーターサンドさんは大ケガをして、ねこを残したまま島の外の病院<sup>びょういん</sup>に入院しました。ところが、退院<sup>たいいん</sup>してみると島にのこっていたのは、9ひきのねこだけだったのです。

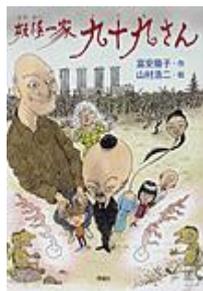
「バティストさんとハンガーブルグ=ハンガーブルグ伯爵のおはなし」 ★★

ルドウィッヒ・ベーメルマンズ／作 BL出版

執事<sup>しつじ</sup>のバティストさんは、ハンガーブルグ伯爵<sup>しよ</sup>のお城で働くことになりました。伯爵は、ものにはもっと正しい名前があるはずだと考え、犬には「互いに互いの友達<sup>ともだち</sup>」、ベッドには「夢<sup>ゆめ</sup>の箱<sup>はこ</sup>」と名前をつけ直しました。ある晩<sup>ばん</sup>、お城で火事がおこり、バティストさんは、言いつけどおりにその名前<sup>しょうぼうしよちょう</sup>で消防署長に説明しましたが、うまく伝わりません。



## ものがたり



「<sup>ようかい</sup>妖怪一家<sup>つくも</sup>九十九さん」 ★★★ 富安 陽子／作 理論社

九十九さん一家は、<sup>だんち</sup>団地の地下に住んでいます。まるで人間のようにはくらししていますが、実は妖怪です。お父さんはヌラリヒョン、お母さんはろくろっ首、子どもたちは、一つ目小僧にアマノジャク。妖怪たちは、人間と一緒にくらししていけるのでしょうか。

「リンデ」 ★★★

とき ありえ／作 講談社

リロは、お母さんを亡くしてから、これからおきる悪いことを予想してしまうくせがついてしまいました。そんなとき、リンデという大きな犬をあずかることになります。リロは、リンデの<sup>せわ</sup>世話で大いそがしです。悪いことを考えるひまもありません。



## ちしきの本

「かんたん楽しい手づくり本 1 いろいろな形の本をつくってみよう！」

水野 真帆／作 岩崎書店



<sup>みちか</sup>身近な材料で、本を作ってみませんか？ <sup>ざいりょう</sup>画用紙を切って折るだけの本や絵がとび出すしかけ絵本など、<sup>お</sup>9種類の本の作り方をしょうかいしています。とじかたや紙を変えるだけでふんいきのちがった本ができますよ。

「<sup>きぼう</sup>希望の筆 <sup>しょうがい</sup>ダウン症の書家・<sup>しよか</sup>金澤翔子物語」

丘 修三／作 佼成出版社

ダウン症という<sup>しょうがい</sup>障害をもって生まれてきた翔子さんは、書道の<sup>せんもんか</sup>専門家「書家」です。翔子さんが書く力強い作品には、多くの人が感動します。また、両親やまわりの人たちは、前向きで、いつもにこにこしている翔子さんが大好きです。





# こんげつのとくしゅう からだの本

みんなにとって、大切なからだ。自分のからだのこと、どこまで知っていますか？

「はなのあなのはなし」 (えほん) やぎゅう げんいちろう／作 福音館書店

いきをすったり、はいたりするほかに、はなのあなには、どんなやくめがあるのかな？

「耳かきのすきな王さま」 ★ 小園江 圭子／作 講談社

人の耳をかくのが大すきな王さまがいました。毎日、耳あかをとっていると・・・。

「くしゃみくしゃみ天のめぐみ」 ★★ 松岡 享子／作 福音館書店

くしゃみ、しゃっくり、いびきなどをもとにしたお話が5つはっています。

「人体透視図鑑」 (ちしきの本) リチャード・プラット／作 あすなろ書房

からだの中をくわしく描き、まるで、からだの中を旅しているような図鑑です。

## シリーズしょうかい



「ダレン・シャン」シリーズ 全12冊 (物語) ★★★

Darren Shan／作 小学館

親友の命を救うために、半バンパイア (吸血鬼) となった少年ダレン・シャン。奇想天外なストーリーの中に、友情と冒険がテーマになっているファンタジーです。

### ① 「奇怪なサーカス」

少年ダレンが手にいれたサーカスのチケット。そのサーカスを見に行ったことから、ダレンの不運な人生がはじまります。

### ⑤ 「バンパイアの試練」

半バンパイアとなったダレンは、仲間からみとめてもらうために、厳しい試練を受けます。ところが予想もしない出来事がおこりました。

### ⑫ 「運命の息子」

なつかしの生まれ故郷に戻ったダレン。ここでは、かつての親友で今は敵となったステイブとの最後の戦いが待ちうけていました。

< 編集・発行 >

富山市立図書館

富山市丸の内1丁目4-50 電話 076-432-7273